

日本産業衛生学会東海地方会

地方会ニュース

発行所 東海地方会ニュース編集事務局
〒541-0056
大阪府大阪市中央区久太郎町 2-1-25 JTB ビル 8F
株式会社 JTB コミュニケーションデザイン
事業共創部 コンベンション第二事業局内
FAX : 06-4964-8804
発行責任者 齊藤 政彦

題字 皿井 進筆

巻頭言

職場の心理社会的安全性

伏見・長東伝クリニック 院長 小林 章 雄



「最高のチームをつくる要因は何か」について「われわれが見出した5つの成功因子のうち、【職場の心理的安全性】の重要性は群を抜いている」とする Google の調査プロジェクトの見解などを契機として、職場の心理的安

全性についてのメディアや論文の言及が著しく増加するなど関心が高まってきました。職場の心理的安全性が、仕事のパフォーマンスのみならず、心身の健康についても影響を及ぼすとする研究の進展も見られます。Dollard らは、会社の Psychosocial Safety Climate (PSC : 職場の心理社会的安全性) が仕事要求度・コントロールなど職場や作業レベルでのストレス要因のほか、抑うつ、いじめ・パワハラ、循環器疾患などに影響することを指摘しています。また、PSC の測定ツールとして4項目の質問票を公表しています。質問の内容について暫定的な和訳を示しますと、「経営層は会社のストレス対策に積極的に参加している」「経営層は従業員の心の健康を生産性と同じように大切に考えている」「会社では、周りの人と仕事のストレスなどについて気軽に話ができる」「会社をあげてストレス対策に取り組んでいる」という経営層及び会社のあり方についても問う内容となっています。「職場環境改善が進まないのは、そのやり方が悪いだけなのだろうか?」「健康も生産性も、という「健康経営」の考え方は、本当に従

業員に共有・実感されているのだろうか?」など、日頃抱きやすい疑問も、職場の心理社会的安全性は?という視点から問い直してみるのもよいかもしれません。「有効なものはなんでも取り入れる」という現在の多くの会社の組織パラダイムは、次第に「成果もさることながら、多様性や主体性、個人の働くことの意味や喜びを尊重する」それへと転換しつつあるとされます。職場の心理社会的安全性の醸成を含め、産業保健の懐が深い活動がますます期待されていると思います。

最後になりましたが、2022年5月に高知市で開催された第95回日本産業衛生学会に先立つ総会において、地方会よりご推薦いただいた私の名誉会員の件が承認され、称号が授与されました。皆さま方のご支援とご尽力に心より感謝申し上げます。



開催報告

2022 年度東海地方会学会開催のご報告

企画運営委員長（四日市看護医療大学 学長） 柴田 英治



新型コロナウイルス感染症の蔓延が始まって 3 年目になりますが、その勢いは現在も続いています。2022 年度東海地方会学会は第 7 波・8 波の間に開かれた形になりました。感染対策もある程度定着し、オンラインの

みの開催から対面・オンラインのハイブリッド開催の学会が一般的になる中、今回の地方会学会もこの流れに沿う形でハイブリッド開催に踏み切りました。三重県での開催であることから、感染対策に加えて遠隔地の会員への便宜を図る意味もありました。

お陰様で参加者は、現地 74 名、オンライン 93 名、合わせて 167 名となりました。参加者の中に東海地方会以外の会員も含まれており、オンラインの特性が活かされました。会場となった大学講義室内は、密にならない範囲で最大限とっていい人数が集まり、ハイブリッド開催の意義が十分に発揮されたと思われます。

今回の学会ではコロナ禍がもたらした様々な影響を総括しつつ、産業保健専門職として今後の実務がどう変わっていくのかについても考えようと、シンポジウム「コロナ禍の克服に向けた産業衛生の課題」を企画しました。幅広いシンポジストが感染に伴う様々な影響を人間工学、メンタルヘルス、内分泌代謝系の各面からとらえ、さらに保健師による産業保健活動の実務の取組みを紹介していただきました。これからの実践活動とともに研究面でも課題が提起されるシンポジウム

となりました。特別講演は本学での開催という機会を最大限に活かし、本学の教授陣から、女性がん経験者が働く上で抱く様々な思いを自由に語った言葉から注目すべき点を抽出する研究をされている杉崎一美教授にお願いしました。「女性がん経験者の就労・就労継続の思いと包括的就労支援」と題する講演は治療と仕事の両立支援にとどまらない新たな産業看護の問題提起になりました。

一方、午前中の一般演題は会員の皆様方の積極的な応募により、短期間に 16 演題が集まり、若手から名誉教授まで、また基礎研究から実践活動まで様々な課題について活発な討論が行われました。

開催にあたっては三重産業看護研究会からは人的支援を、三重産業医会からは人的支援に加えて講演集に広告を掲載していただき、財政面での援助もいただきました。一般財団法人愛知健康増進財団様からは寄附金を頂戴しました。また、開催後に一般財団法人日本予防医学協会様からも寄附金のお申し出がありました。講演集への掲載が叶わなかったこと、お詫びいたします。

3 年ぶりの対面開催となり、現地参加の方々には思いがけない交流や出会いといった、対面開催ならではの学会の意義を感じられたことと思います。またオンライン参加の方々にとっても、対面に劣らない十分なコンテンツをお届けできたと思います。来年度も日本福祉大学の水谷聖子先生を企画運営委員長として、本学会で東海地方会員の学術的交流が続けられることを期待しています。



2022 年度 東海地方会産業医部会懇話会開催報告

愛知医科大学産業保健科学センター 成 定 明 彦



2022 年度 東海地方会産業医部会懇話会が開催されましたのでご報告申し上げます。

22 年度の懇話会は 2022 年 4 月 9 日 (土)、ウインクあいち会場の現地開催と ZOOM によるオンライン開催のハイブ

リッド形式で行いました。日本産業衛生学会理事長/産業医科大学教授の森兎爾先生と日本産業衛生学会産業医部会部会長/日本製鉄(株) 東日本製鉄所統括産業医の宮本俊明先生を現地にお招きし、講演を行って頂きました。

第 1 部は、森先生に「日本産業衛生学会 100 周年に向けた取組と会員への期待」と題した講演を頂きました。産業衛生学会は、多職種の学会員から構成されること、かつ企業実務を担当する学会員も多いこと、社会環

境と密接に関わる特徴があることの話がありました。会員向けアンケートの結果を示しながら、多様なニーズをふまえて、学会として 2029 年の 100 周年に向けて学術活動・人材育成・社会貢献を行っていく決意を述べられました。学会員にはこれまで以上の学会への「参加」を期待しているとのことでした。

第 2 部は、宮本先生に「産業医部会の将来像と東海産業医部会に期待すること」と題した講演を頂きました。30 周年を迎えた医部会の活動として、プロフェッショナルコースなどの社会ニーズをふまえた産業医のための研修や、安衛則 634 条(職場での救急用具に関する条項)への意見提案などの紹介がありました。未来の社会・労働環境を考察しながら、これからも社会のニーズに応じていくことの重要性を話されました。東海地方会医部会へは、東海地方会の大きすぎない規模や結束の固さを活かして、全国に先駆けた活動や良好事例の提供を期待するとの言葉を頂きました。

2022 年度 東海地方会第 1 回産業看護部会研修会に参加して

キオクシア株式会社 四日市工場 保健師 櫻井 雅 将



2022 年 7 月 23 日、約 4 年ぶりにウインクあいちで現地開催されました第 1 回東海地方会産業看護部会研修会に参加した学びを報告させていただきます。

講師は SNS 上の通称「ガチ産業医」こと、産業医科大学産業生態科学研究所災害産業保健センターの五十嵐侑先生、講演テーマは「産業保健における SNS 活用法ー産業保健職に必要な情報・言語化・ネットワークがそこにあるー」、コロナ禍ではありましたが 50 名ほど聴講されておりました。

講演では、産業保健職に必要な 1)情報戦の攻略、2)ネットワーク構築、3)言語化によるアウトプット、の 3 点についての SNS の活用法をご紹介します。

1)情報戦の攻略では、法令やガイドラインなど日々アップデートされる産業保健の情報をいち早くキャッチし、端的にアウトプットできるのか、コミュニケーシ

ョンが武器となる産業保健活動は情報戦であり、そこを攻略していくのが重要であるとお話でした。私自身、日々の情報収集において、入手したい情報に容易にたどり着けない、正しい情報を得るのに時間を要すなどの悩みを抱えていましたが、SNS を活用することで誰かが応えてくれる、数分で得たい情報を入手できるといった利点について、大変興味深く拝聴しました。

2)ネットワーク構築では、産業保健職は指導体制やロールモデル・キャリアモデルがなく孤独であるが、SNS を活用することでネットワークを形成することができ、相場感や温度感がつかめたり、日々のストレスケアにも活かせたりと、リアルとは異なる SNS ならではの特徵について知る機会となりました。

3)言語化によるアウトプットでは、非専門職の方々のコミュニケーションの中で相互理解と役割分担のためにも、日々行っている産業保健活動を言語化する必要があり、SNS 上でアウトプットすることでコミュニケーションを磨くことができることのお話が印象的でした。また非専門職とのコミュニケーションを行える利点についてもご紹介いただきました。

日々業務を行う中で、情報収集に時間を要した経験や上司へ業務説明が上手くできない場面があり、本研修会を聴講する機会が得られたことで、今後効率かつ効果的に業務を進められそうな一助となりました。情報化社会である現代では、SNS の活用が鍵となりうるため、今回学んだ特徴や利点を良く理解した上で、今後の産業保健活動に活かしていきたいと思えます。



会場風景

第 29 回日本産業ストレス学会 開催報告

ブラザー工業 健康管理センター 保健師 日 笠 ちはる



2022 年 3 月 25 日、26 日の 2 日間、第 29 回日本産業ストレス学会が約 2 年ぶりの現地(ウインクあいち)とオンラインによるハイブリット方式で開催されました。現地参加者 828 名、2 日間のオンライン参加者は 483 名と、多くの方にご参加いただきました。大会長は現場の産業医・保健師である、三菱重工業株式会社の石川浩二先生とキオクシア株式会社の高崎正子先生でした。筆者は企画運営委員として準備～当日運営に参加しましたのでご報告させていただきます。

本学会のテーマは「現場から発信！明日へつなぐ～チームで進める産業ストレス対策～」であり、大会長のお二人らしい実践的な企画も多く取り込まれた内容となりました。特に印象に残っているのは特別企画「究極のストレス状態をいかに克服するか～プロ野球記録保持者の幾多の経験・エピソードをもとに～」として岩瀬仁紀氏(元中日ドラゴンズ投手)にお話いただいたことです。数々の名勝負の裏話をストレスという視点で深堀できたことは興味深かったですし、ドラキチ石川先生のイキイキとした表情も素敵でした。

また、教育講演では「コロナ禍と依存症—アルコール・ギャンブル・ネット依存の現状を知る—」「コロナ禍における職場のメンタルヘルス対策をとりまく行政

の動き」等、この時代特有のテーマについて取り上げられました。他にも 4 つのワークショップでは具体的な実践例に基づく体験型研修が行われ、明日からすぐに現場で使えそうという声が聞かれました。全てをご紹介することはできませんが、各企画それぞれに魅力あるテーマで行われました。

第 6 波が到来する中で予定通り開催できるかどうか、直前まで心配がありました。当日は「全員が笑顔で楽しもう！」を合言葉に、大会長をはじめ、副大会長の西賢一郎先生、住徳松子先生、事務局長の松田史帆先生、企画運営委員、ボランティアスタッフの皆様が力を合わせ、参加者の安全安心を守り、無事に終えることができました。ご参加いただいた皆様に心から感謝申し上げます。



研究室紹介

こんにちは 人間環境大学看護学部看護学科 地域看護学公衆衛生看護学領域 人間環境大学大学院看護学研究科 広域看護学分野 地域看護学領域 です。

人間環境大学 看護学部 異 あさみ

人間環境大学は本部を愛知県岡崎市におき、大府市、愛媛県松山市と三つのキャンパスに3学部・2大学院研究科を持つ大学です。

大府キャンパスは2015年4月に大府市の全面協力を得て、大府駅西ロータリーから徒歩2分圏内の池の中に建設されました。(写真1)

大府キャンパスでは看護学部と大学院(博士前期課程・博士後期課程)を日本で初めて同時開設しました。その理由として、現在の看護職は看護師・保健師等自らが考え行動し、現場の中で適切なケアを実践できる人材が求められているという背景があります。資格取得や就職に向けた実践的な教育はもちろん、豊かな人間性と高い倫理観、および高い実践能力や研究能力を併せ持った看護研究者・教育者を育成するため、学士課程から大学院博士後期課程までの全課程を有する次世代に向けた「総合看護教育機関」であることが特徴です。現在、本学の国家試験合格率は保健師・看護師とも100%を継続中です。

看護学部等がある大府市は健康長寿の一大拠点の形成を目指すウェルネスバレー構想として、「国立長寿医療研究センター」「あいち健康の森健康科学総合センター」「あいち小児保健医療センター」等の健康・医療・介護・福祉関連の専門機関や施設が集積する全国有数の地区です。本学は大府市との包括協定および災害時

における被災者支援に関する協定を締結し協働連携しており、学生はそれらの専門研究機関や大府市保健センターなど恵まれた環境で学習ができます。

看護学部の公衆衛生看護学領域は愛知県の規定に則り「保健師コース」として大学選択制(定員の15%を選抜、本学では14名)をとっています。学生は保健師志望であるため、学習に意欲的・積極的であり教員もおのずと力が入ります。学部教員(写真2)は3名です。事業場、行政、医療機関等での保健師経験があり、教員の研究テーマは睡眠保健指導、子ども虐待予防、メンタルヘルス、乳幼児の母親への育児支援、男性高齢者の社会参加・支えあい活動による地域づくりなど様々で、社会のニーズに即した研究を継続しています。大学院生は博士前期課程1人、博士後期課程の1人で、各「子育て経験者によるアウトリーチ型子育て支援」、「人生の最終段階における元気高齢者の意思決定支援の教育プログラム開発」をテーマに教員ともども日々研究に励んでいます。

本学では、新型コロナウイルス感染症拡大下においても、事業場や行政機関のご理解とご協力により、保健師学生の臨地実習は全て受入れていただいています。自ら考えて判断できる保健師育成に向けて、今日は自動車関連部品事業場での「職場巡視」実習指導を楽しみに元気に出かけていきます。



【写真1】大府駅至近の池の中に建設された8階建ての看護学部・看護学研究科



【写真2】看護学部看護学科公衆衛生看護学領域の教員
左から、高田直美(助教)、異あさみ(教授)、小島修子(助教)

受賞報告

功労賞受賞の栄誉に浴して

土屋眞知子コンサルタントオフィス 代表 土屋 眞知子



この度功労賞受賞の栄誉に浴したことは身に余る光栄と存じます。これもひとえに、皆様方のご指導の賜物と深く改めて感謝申し上げます次第です。

1994 年に入会し今日まで常に受身の学会活動でありました。1996 年から理事会活動に参画いたしましたが、鶴舞会館で島正吾先生や竹内康浩先生にお目にかかれるだけで感激する新米評議員でした。当時の理事会では多くの方から学術的な最新情報を得ることができ日常の作業環境測定士業務に大いに役立ったものです。こうした学会活動を通して得られた知見は労働衛生コンサルタントを本業とすることとなった今日においても職場の環境改善指導に役立つとともに、新任測定士の育成にも大いに寄与しています。

産業衛生技術部会では 2001 年の発足当初から本

部幹事に任命され、2003 年の第 8 回部会大会は実行委員長という大役を仰せつかりました。ダイオキシン問題を摂南大学の宮田教授からご講演を賜り、「法律遵守型から問題解決型職場改善へのステップアップ」と題するシンポジウムを企画開催できたことは忘れられない思い出となっています。

このように私の学会への関わり方は調査研究等の演者でなく、受付、会計や座長等の企画側の役割が主でありました。功労賞選考細則には、「功労賞は、永年にわたる真摯な産業衛生活動によりすぐれた業績を挙げ、本法人の発展に貢献の著しい会員を顕彰する。」とあります。学術的な貢献度は全くない私ですが、この「真摯な活動」と「発展に貢献」のキーワードは私の学会活動の色合いを指しているかも知れません。功労賞をご推薦下さいました斎藤先生と城先生に深く感謝するとともに、学会の更なる発展にお役に立てるよう更に尽力する所存ですので、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

第 13 回 GP 賞受賞について

株式会社東海分析化学研究所 大場 恵 史



1. はじめに

GPS に投稿した「作業環境測定機関の測定現場における環境改善提案事例 アーク溶接作業場 トーチ型ヒュームコレクターの使用」が、今年度の総会でベスト GP 賞をいただきました。

昨年度、溶接ヒュームの法改正がされ、多数のアーク溶接作業場で個人ばく露測定をしています。その中で環境改善がかなり上手いといった実例です。詳しい内容は学会の HP をご覧下さい。

2. 背景と課題

アーク放電の高熱により金属を溶融させ結合させる「金属アーク溶接」は、金属蒸気が空気中で冷却され再結合し固体状の微粒子となった「溶接ヒューム」が発生します。溶接ヒュームのばく露による有害性については、じん肺、肺がん、溶接ヒューム中のマンガンの神経機能障害などが知られています。

令和 3 年に新たに「溶接ヒューム」が第 2 類特定化

学物質として位置付けられ、特殊健診の実施等に加えて、吸入性のマンガンの個人サンプリングによる空气中の溶接ヒューム濃度測定が義務付けられました(マンガンの管理濃度である 0.05mg/m³)。

今回導入を試みたトーチ型ヒュームコレクターは、溶接トーチとヒュームコレクターを一体化させたものです。溶接ヒュームの発生源の直近に捕捉ノズルを配置でき、従来の外付け式吸引フード型のもの等に比べて、トーチから吹き出す溶接部の周りのシールドガスを乱すことなく、低風量で溶接ヒュームを捕捉することができます。

3. 改善の概要と効果

個人ばく露測定により溶接ヒュームの濃度を改善前後で測定しました。ヒュームコレクターを使用しない場合は、吸入性マンガンの濃度が 0.34mg/m³ と管理濃度を大きく上回っていましたが、使用した場合には、0.005mg/m³ 未満と大きく減少しました。今回の手法は、低コスト・高効率で安全性が高いですが、コレクターの風速が強すぎるとシールドガスを乱し溶接不良を起こすため風速の微調整に注意が必要です。

リレーエッセイ

アフターコロナに向けて

富士通株式会社 健康推進本部 健康事業推進統括部/Nagoya Hub 産業医 佐藤博貴



新型コロナウイルス感染症の流行により、産業保健のフィールドは大きな変化が起きていると感じています。特にリモートワークが可能な職種においては、今までの働き方とは異なるメリット・デメリットが内包され、より自律的な立ち居振る舞

いが個人に求められてきているのではないのでしょうか。また管理する側にとっても、既存の安全衛生管理体制の枠組みで介入しきれないプライベートの作業空間において、どのように安全衛生の意識を持って就業していただくかという課題も存在します。最良の一手はなかなか思いつきませんが、原点に立ち返り、「なぜ、この活動が必要なのか」という問いかけを地道に繰り返していくことが鍵なのかもしれません。

弊社では、新型コロナウイルス感染症の流行以前よりリモートワークによる働き方を準備していましたが、一部の従業員が利用するにとどまる「特別感」のある制度でした。それが、2020年以降は一気に働き方の一つとして展開され、Work Life Shift という従業員一人一人の Well-Being を目指す施策につながっています。また、並行して準備されたジョブ型人材マネジメント制度などの社内制度改革と相まって、上述の自律的な行動がより求められています。その中で、パーパス・カービングという全社員を対象とした取り組みがあり、健康管理部門でも実施されました。文字通り、「存在意義を削り込む」ということですが、個々のパーパスを見つめなおした上で、会社が経営の主軸として持つ

ているパーパスと、それらがどのようにかけ合わさっていくかということを確認する作業です。

産業医学・産業保健・労働衛生に関わる専門家であれば、プロフェッショナリズムとしての個別のパーパスは既に持たれていると思います。しかし、そのパーパスが本当に会社のパーパスとシナジーしているのか、一生懸命に取り組もうとしていることが専門家のやりがいのみに留まっていないのか、は確認が必要です。一方で、企業のパーパスに忖度し利害関係の波に吞まれてしまえば、当然、専門家としてのパーパスも失われてしまいますので、独立性を担保するためのバランス感覚も常に意識していかなければいけません。このパーパス・カービングは、そういった事を再考する良い機会だったと思います。

企業内における専門家の立ち位置については今に始まった議論ではなく、何をいまさら、と思われるかもしれませんが、時代が変わり、環境が変わり、様々な条件が移ろいでいく中で、思わぬ方向に流されてしまうこともあり得ます。そのような時にはふと立ち止まって原点回帰するということは必要ですし、結果として、その時点より先の未来をどのように見据えて今を行動していくのか、道標になるものと思います。現実に合わせてしなやかに、しかし、ぶれない軸を意識しながら変化していく産業保健活動を進めていきたいと考える今日この頃です。

今回は、パナソニックIS社メカトロニクス事業部伊勢 産業医の山口 威俊 先生にバトンをお渡しいたします。

山口先生、どうぞよろしくお願い致します。



会 員 の 声

ご挨拶

本田技研工業株式会社 鈴鹿製作所 健康管理センター 産業医 杉野 美由紀



本田技研工業株式会社鈴鹿製作所 産業医の杉野と申します。産業医修練としてトヨタ自動車株式会社に 1 年間勤め、北九州市で嘱託産業医を 2 年間経験した後、2020 年 4 月より地元の鈴鹿市に戻り現職場に就

職しました。

現職場は、四輪・二輪や汎用製品の他、航空分野にも進出した総合モビリティメーカーです。鈴鹿製作所は、軽自動車を中心とした国内最大規模の四輪製造拠点であり、従業員数は約 8,000 人となっております。鋳造工程を含むエンジン工場と車体部品のプレス・溶接・塗装・組立・検査工程が存在する完成車工場を有し、自動車の製造工程のほぼ全てを網羅した国内でも珍しい事業場です。産業保健の観点から見れば製造ライン

における交替勤務（深夜勤）をはじめ、粉じん、有機溶剤、特化物、筋骨格系疾患、騒音、情報機器取扱いなどの多種多様な有害業務が存在しております。また、いわゆるホワイトカラーに該当する設計開発部門もあり、異なる職場環境における事例対応のみならず過重労働者やストレスチェックの対応等、様々な産業保健ニーズが存在している中で産業保健スタッフの皆様や関係部門の方々に助けていただきながら、日々過ごしています。

昨年 8 月に日本産業衛生学会の専門医試験を受験し、合格することができました。ご指導いただきました諸先輩方にこの場を借りて御礼申し上げます。今後も研修会や学会を介して新たな知識を得たり他職種の方々と交流を深めたりと自己研鑽に励み、より良い産業保健活動に繋げていきたいと思っています。ご指導ご鞭撻の程、どうぞよろしくお願い申し上げます。

入会のご挨拶

社会福祉法人 聖隷福祉事業団 保健事業部 保健看護管理室 健康支援課 津留 寿江里



この度日本産業衛生学会東海地方会に入会いたしました社会福祉法人 聖隷福祉事業団 保健事業部 保健師の津留寿江里と申します。

2017 年に産業医科大学を卒業後、保健師として当事業部に入職し 6 年目となります。

当事業部は「わたしたちは、利用者の皆様と力を合わせてお一人おひとりの健康の実現を支援します。」という理念のもと、健康診断や人間ドック、労働衛生管理、メンタルヘルスケアなど様々な事業を展開しています。健康診断においては、年間 60 万件以上を実施しています。

その中で、現在私は主に特定保健指導業務に従事しています。様々な業種の方を対象に、健診データだけではなく対象者自身の勤務形態やライフスタイル、健康観など全人的な視点で対象者を捉えることを意識して

います。行動変容にまで至るアプローチは難しい、と思うことが多いですが、目標達成できた利用者様の「面談を受けたことで、頑張ることができました。」などといった声を励みに、やりがいを持って取り組んでいます。

特定保健指導業務を行うにあたって、産業保健の視点を持つ必要性を日々感じています。対象が「働く人」である限り、健康は職場環境や作業形態等に大きく影響されるからです。実際に、一次健康診断で要精密検査項目が未受診だった方に、就業上の配慮に関わる内容であったため事業所担当者から産業医面談に繋げてもらった事例がありました。

特定保健指導に従事するスタッフ全員が労働衛生機関として対応ができるように、事例共有や勉強会なども積極的に実施しています。

知識、経験共に深めるために、学会や研修会等に積極的に参加し、精進していきたいと考えています。今後とも、ご指導ご鞭撻のほど何卒宜しくお願い致します。

研究・論文投稿時の補助・支援制度の紹介

学術研究推進委員会委員長、浜松医科大学健康社会医学講座 教授 尾島 俊之



産業保健現場において、自社の従業員の健康のために、またその知見を広く働く人々の健康に役立てるために、調査研究を行いたい方、その実施や発表のための資金が必要な方を支援します。調査研究の内容としては、学

術研究的なものだけではなく、グッドプラクティスの報告や、データに基づき現場の産業保健活動を改善するためのものも歓迎します。

- ・メンタルヘルスに関する現状を分析した上で、心の健康づくり計画の見直しを行いたい
- ・職場環境や働き方などについて、質的に改善を進めていきたい
- ・生活習慣病対策として取り組んできたことの効果をきちんと検証したい
- ・健診や医療費の膨大なデータを活かして、疾病予防の重点方策を明らかにしたい
- ・喫煙による生産性への影響等を定量化して、その対策の重要性を経営陣に示したい
- ・社員食堂を活用した健康づくりを進めていきたい

・口腔衛生の取り組みと全身の健康との関連を明らかにしたい

・リスクアセスメントについて、より科学的根拠に基づいて展開していきたい

・職場巡視について、個々の現場への指摘だけではなく、より体系的に進めたい

そのようなときに、一緒に考えてくれる方や、統計解析方法・発表のまとめ方などの指導をしてくれる方が身近にいないと困っている方はいません。

学術研究に必要な費用、英文校正料及び論文掲載料等について、1 件 10 万円を上限として、地方会の会計から助成します。論文掲載料は、産業衛生学雑誌、Journal of Occupational Health および Environmental and Occupational Health Practice が対象になります。

また、東海地方会で、学術研究を推進するアイディアも募集しています。

ご連絡は、尾島俊之：ojima@hama-med.ac.jp (※を@に置き換えてください) までお寄せ下さい。学術研究推進委員会のホームページも参照ください。
<http://tosh-net.umin.jp/gakujutsu.html>

事務局から

2022 年度総会決議より

1. 第一回総会を 11 月 12 日 (土) に四日市看護医療大学、WEB (Zoom) で開催した。
2. 2021 年度 事業報告が行われた。
3. 2021 年度 決算報告が行われた。
4. 2021 年度 会計監査報告が行われた。
5. 2023 年度 事業計画が承認された。
6. 2023 年度 収支予算が承認された。

地方会理事会

2022 年度 第 2 回理事会

日時：2022 年 10 月 22 日 (土) 10:00~12:00
Zoom による Web 会議

【議題】

- I. 前回理事会議事録 (案) の確認
- II. 協議事項
 - 1) 2022 年度総会について
 - 2) 役員選挙について
 - 3) 学会員への謝金について

4) 共催セミナーについて

5) 次回の理事会の日程について

6) その他

III. 報告事項

1) 2022 年度地方会学会準備報告

2) 2023 年度地方会学会準備報告

3) 第 35 回産業保健スタッフのための研修会準備状況

4) 本部理事会報告

5) 地方会事務局報告

6) 地方会活動方針検討委員会

7) 学術推進委員会

8) 編集委員会

9) 研修会企画委員会

10) 広報委員会

11) 表彰制度推薦委員会

12) 部会報告

13) 職場ストレス研究会報告

14) 各県の活動報告

15) その他報告事項

16) 関連学会研究会開催情報

17) その他

会員状況

2022 年 4 月 1 日～2022 年 10 月 7 日の推移
(2022 年 10 月 7 日現在)

	愛知県	静岡県	三重県	岐阜県	合計
増減	19(1)	13(2)	2(0)	0	34(16)
本部正会員	522	232	104	44	902

※()は学生会員を表す

2022 年度日本産業衛生学会 東海地方会選挙結果

1. 会長選挙当選者

齊藤 政彦

2. 代議員選挙当選者 (74 名 (50 音順))

青山 知高	赤津 順一	秋山ひろみ
足立留美子	池田友紀子	石川 浩二
市丸麻衣子	伊藤 由起	井奈波良一
上原 正道	内野 文吾	内山 靖
梅津 美香	榎原 毅	遠田 和彦
太田 充彦	尾島 俊之	加藤 一夫
加藤 昌志	加藤 芳司	上島 通浩
川角 美佳	菊永 彩香	金 一成
工藤 香奈	久保田美緒	栗木 美幸
黒川 淳一	高畑 真司	小嶋 夏弥
後藤 由紀	後藤 義明	近藤 祥
齊藤 政彦	酒井 潔	酒井 秀精
榊原 洋子	佐藤 寿一	軸丸 靖章
柴田 英治	澁谷 亮	白石 知子
菅沼要一郎	杉 敏彦	鈴木 隆佳

笠島 茂	高崎 正子	高橋 一矩
城 憲秀	巽 あさみ	塚田 月美
内藤 久雄	中村美詠子	中元 健吾
七浦 広志	成定 明彦	新島 邦行
西 賢一郎	西谷 直子	日笠ちはる
平野 貢	古田さと子	松浦 清恵
三浦 真美	水口 要平	水越 真代
道井 聡史	望月友美子	八谷 寛
山口 威俊	山本 直樹	山本 誠
吉田 美昌	渡井いずみ	

これからの行事予定

2022 年度 職場ストレス研究会

日時：2023 年 2 月 4 日 (土)

会場：名古屋大学医学部 基礎研究棟 3 階
+ オンライン開催

講演：認知行動療法アップデート

-セルフケアのワークを交えて-

2023 年度東海地方会産業医部会懇話会

日時：2023 年 4 月 15 日 (土)

会場：ウインクあいち

講演：ウェルビーイング経営とは何か？

～健康経営との違いと共通点、
産業保健職としての関わり～

第 96 回日本産業衛生学会

日時：5 月 10 日 (水) ～12 日 (金)

会場：ライトキューブ宇都宮

テーマ：強くしなやかな産業保健をめざして

編集後記

新年明けましておめでとうございます。

新型コロナウイルスの発生から 3 年が経過し、ウイルス一つが、世界中の企業・社会における BCP の要因になり得ることを実感すると共に、感染症法に記載された前文の内容に改めて共感しています。

考えもしなかった生活様式が、僅か 1～2 年後にはニューノーマルとされる現在、未経験の事態に対して、如何に柔軟に早期に適応できるか、私達は日々試されているように感じています。

浜松ホトニクス株式会社 菅沼 要一郎

東海地方会ニュース

編集委員長：池田友紀子 (キヤノン)

副編集委員長：西谷 直子 (名古屋大学)

編集委員：赤津 順一 (日本予防医学協会)

榎原 毅 (名古屋市立大学)

河南 文子 (メタウォーター)

後藤 由紀 (四日市看護医療大学)

近藤 祥 (聖隷健康診断センター)

榊原 洋子 (愛知教育大学)

菅沼要一郎 (浜松ホトニクス)

城 憲秀 (中部大学)

山本 誠 (ヤマハ)

東海地方会事務局

〒541-0056 大阪市中央区久太郎町 2-1-25 JTB ビル 8F
株式会社 JTB コミュニケーションデザイン
事業共創部 コンベンション第二事業局内
FAX：06-4964-8804 E-mail：jsoh-tokai@jtbcom.co.jp

印刷・製本

〒675-0055 兵庫県加古川市東神吉町西井ノ口 601-1
有限会社トータルマップ
TEL：079-433-8081 FAX：079-433-3718